

第2次赤磐市自殺対策計画（素案）に関するパブリックコメント（市民意見募集）の結果

○募集期間 令和6年1月22日～令和6年2月16日

○意見提出者 1名（4件）

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
1	P.1 計画策定の趣旨	<p>「計画策定の趣旨」欄には、全国で自殺により毎年約2万人が亡くなっていることは記されているが、「赤磐市の自殺死亡率は改善しているとは言えません」とだけしか書かれておらず、自殺者数が記されていない。</p> <p>2頁を見れば赤磐市でも毎年約7人が自殺で亡くなっていることは分かるが、自殺は個別の報道はされないため、ほとんどの市民が赤磐市でも交通事故を大きく上回る毎年約7人が自殺で亡くなっていることに気づいていない。</p> <p>全国2万人の記述に続いて、本文9行目に「赤磐市でも交通事故による死者数（最近10年の年平均1.3人）を大きく上回る約7人が毎年自殺で亡くなっている」と記述する。それにより自殺対策計画の策定が必要だとの理解が深まるのではないか。</p> <p>（赤磐市の最近10年の交通事故死者数は13人で、毎年0～2人で推移し、4人の年が1年あっただけ）</p>	<p>自殺の深刻さを示すため、自殺者数と交通事故死者数を比較されており、ご指摘のように、赤磐市でも自殺者数が交通事故死者数を大きく上回る現状があります。</p> <p>単年のデータで見れば、赤磐市の人口規模では、過去10年間の自殺死者数において、2人の年もあれば、10人を上回る年もあり、増減差がみられます。本計画では、赤磐市、岡山県、全国の自殺率（人口10万人当りの年間自殺者）の表を参照していただき、より客観的な赤磐市の現状をお示ししたいと考えております。</p> <p>赤磐市におきましても、自殺対策のさらなる充実が必要であることにつきましては、各関係部署の取り組みにて、地域に啓発してまいります。</p>

2	<p>P. 21</p> <p>課題 2 自殺対策に関する知識や対応の習得</p>	<p>計画全体を通して、積極的に自殺対策を取ろうとする姿勢は当然ながら評価される。</p> <p>「他人を守る対応や知識を持つ必要があります」とあるが、思いやりのつもりの言葉が、悩んでいる本人を逆に追い込むこともある。表面的な対応や知識より前に、どのような「気持ち」で対応しているかが伝わる大切である。</p> <p>末尾に例えば「その際、心から寄り添う気持ちを持って向き合うことが大切です。」と記述してほしい。自殺を思いとどまった理由の割合で「家族や大切な人のことが浮かんだ」が高いことにこれが表れている。</p> <p>ゲートキーパー他にも常にこのことを念頭に、悩んでいる人に向き合してほしい。</p> <p>「自身を守るために加えて」は文脈が続かない。削除すべきです。</p>	<p>自殺を考えている人を支援するには、孤立・孤独にさせないことが大切です。そのためには、親身になって悩み事や不安な気持ちを聞いて寄り添うことが必要です。ご指摘のように、こころから寄り添って支援することを啓発していくことが必要ですので、そのような内容が伝わる文章を追加します。</p> <p>また、文脈が続かない部分は削除し、「自身を守るため」という文章を「危機に陥ったときはひとりで抱えることなく、」の後に追加して文脈を整えます。</p>
---	---	---	--

<p>3</p>	<p>P. 21 課題4 子ども・若者への自殺対策の充実</p>	<p>「30歳代男性が一番多く」とあるが、30歳代男性に自殺者が多いのは結果であり、その原因はもっと若い頃の小・中学校での教育にある。</p> <p>自殺者には2パターンがあると思う。一つは、実社会ではあらかじめ決まった正解はなく、自分で最適解を見つける能力が要求される。実社会では学校の成績だけでは通用せず、初めて経験する挫折とのギャップに耐えられないケース。二つ目は、学校の“成績”が悪く、自己肯定感を持ってずに育ち、ついに行き詰まるケース。これらは小中学校時代にはSOSは出していなくても自殺要因が潜在的に蓄積されているといえる。</p> <p>自殺対策の前に、学校教育では“学力”もさることながら、人間力、自己肯定感を養う教育に注力すべきである。これが社会人になってからの自殺予防につながる。</p> <p>30歳代の自殺の遠因には学校教育が大きく関わっていることを教育関係者だけでなく保護者も自覚すべきです。</p> <p>30歳代の自殺者は必ずどこかの学校の卒業生です。</p> <p>健康増進課だけでなく、教育委員会とも協議してこの趣旨を追加してほしい。</p> <p>P. 27「基本施策⑤児童生徒のSOSの出し方に関する教育」の項にも同趣旨を追記してほしい。</p>	<p>学校現場では、従来から人間力や自己肯定感を高め、生きる力をはぐくむ教育が行われています。小学校では、学習指導要領総則に児童の心身の発達や特性について、低・中・高に分けて一人一人のつまずきを早期に見出す等、指導上の配慮を行っていくことが重要であると明記されています。また、中学校では、特別な教科道徳として、授業としての目標等が明記されております。それらを踏まえて、小学校、中学校では人間力、自己肯定感を育む教育を行っています。</p> <p>ご指摘の人間力、自己肯定感を養う教育に注力すべきということにつきましては、今後も教育委員会と連携しながら取り組んでまいります。</p>
----------	--------------------------------------	--	--

4	P. 25 いきいき 100 歳体操のつどい	表記上の問題だけだが、“100 歳体操”は“百歳体操”です。 P. 29「介護予防支援ボランティアの養成」の箇所にもある。	ご指摘のとおりですので、訂正いたします。
---	---------------------------	--	----------------------